

「交通まちづくりと地域再生 —桐生市の取組みから—」 執筆構想

「再生可能エネルギーと地域再生」研究会

2014年12月15日

山梨大学 門野圭司

執筆方針

交通まちづくりの興味深い事例である桐生市の取組みについて紹介するとともに、経済的・社会的側面から考察を加える。

経済的側面からの考察については、桐生市版の産業連関表(108部門)を試作し、桐生市の産業構造の特徴を把握するとともに、小型EVの経済波及効果についての分析を通じて行なう。

また、社会的側面からの考察については、「おわりに」で簡単に行なう。

目次構成案

はじめに：低炭素化と地域再生の両立策としての
交通まちづくりへの注目

第1節：「地域力による脱温暖化と未来の街—桐
生の構築」について

第2節：地域産業連関分析に対する関心の高ま
り—意義と限界—

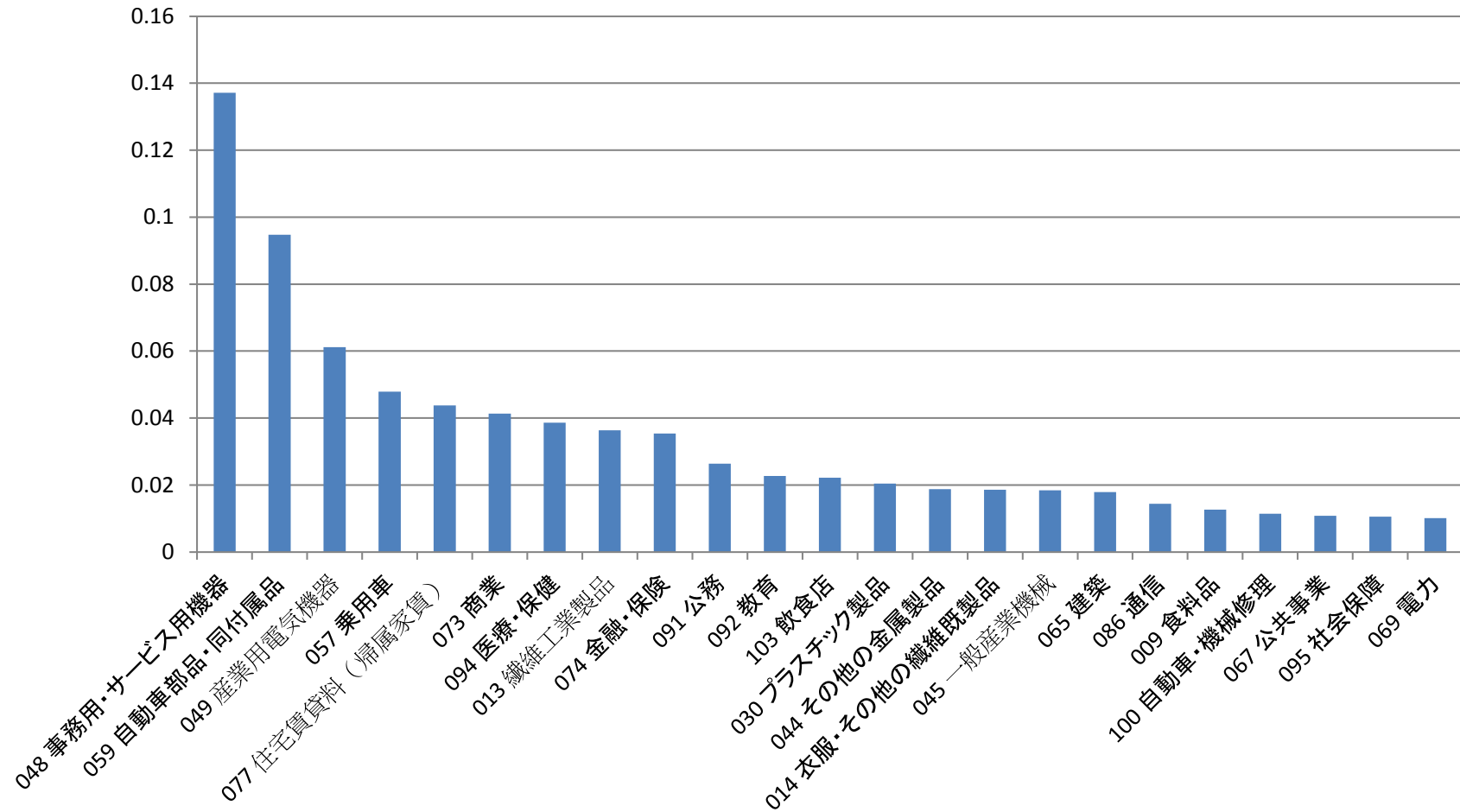
第3節：桐生市の産業構造の特徴（本日報告）

第4節：小型EVの経済波及効果分析

おわりに：桐生市の取組みが示唆すること

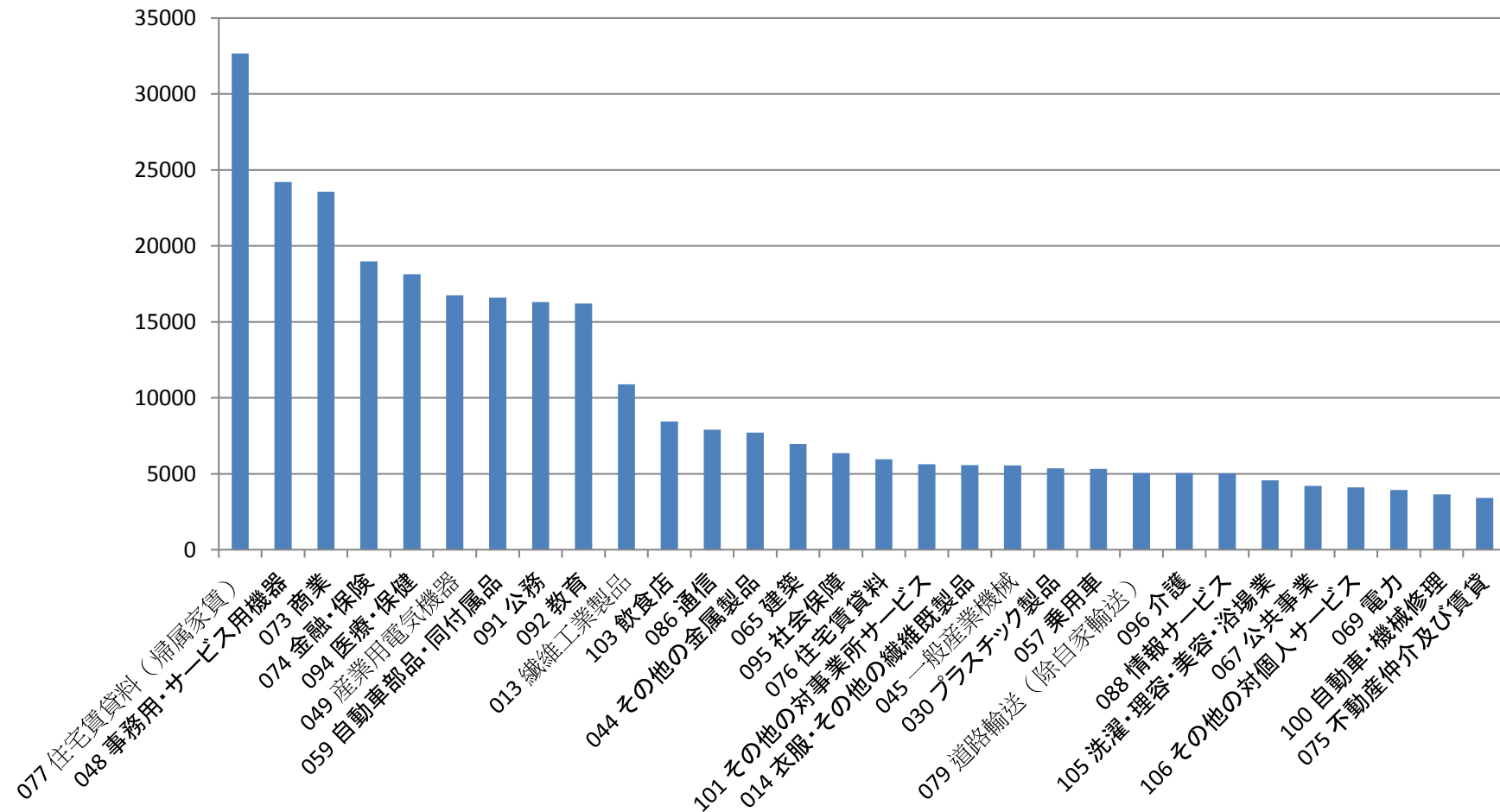
桐生市の産業構造の特徴

①生産額シェア(>0.01)



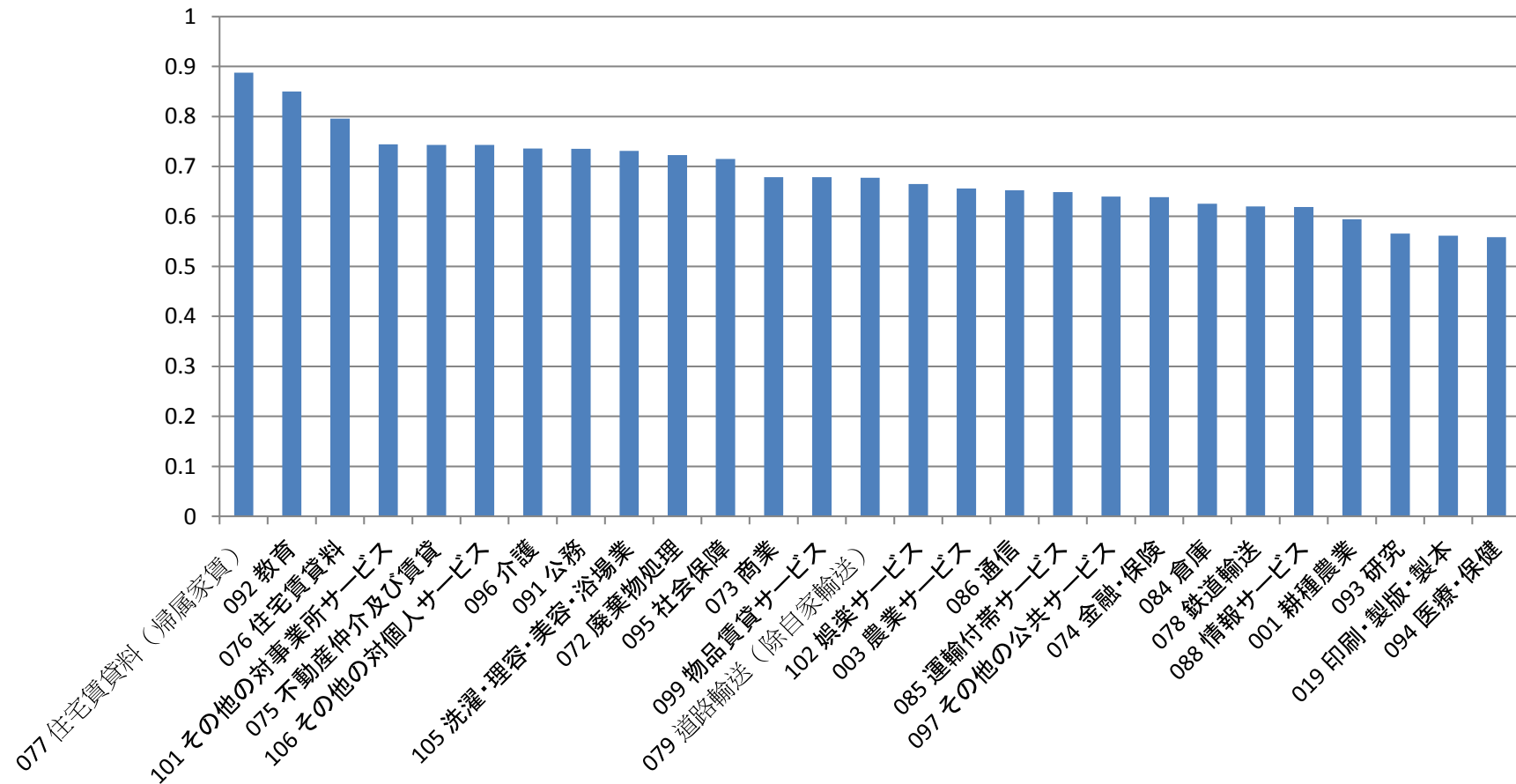
桐生市の産業構造の特徴

②粗付加価値額(単位:百万円、上位25部門)



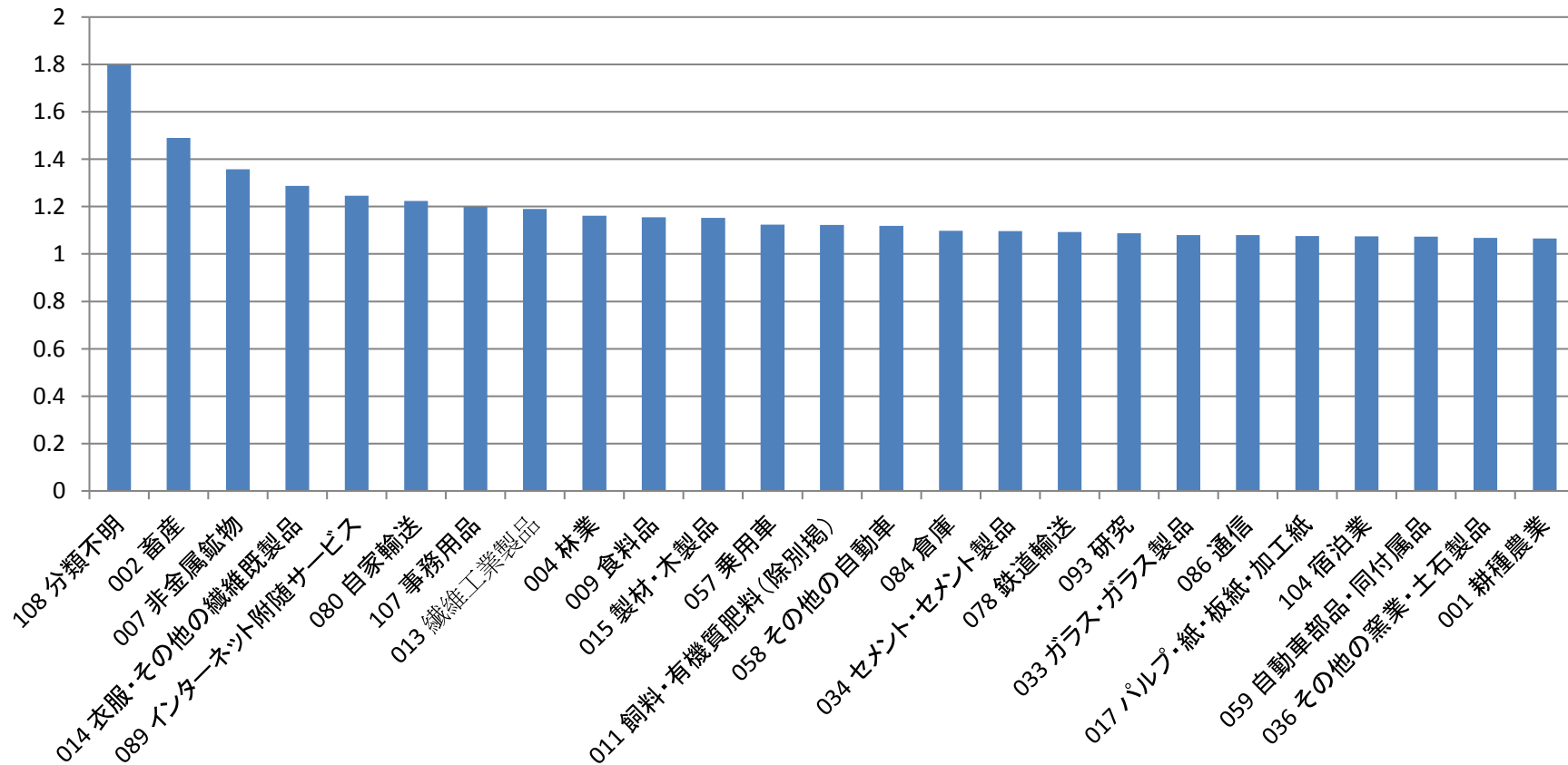
桐生市の産業構造の特徴

③粗付加価値率(>0.5)



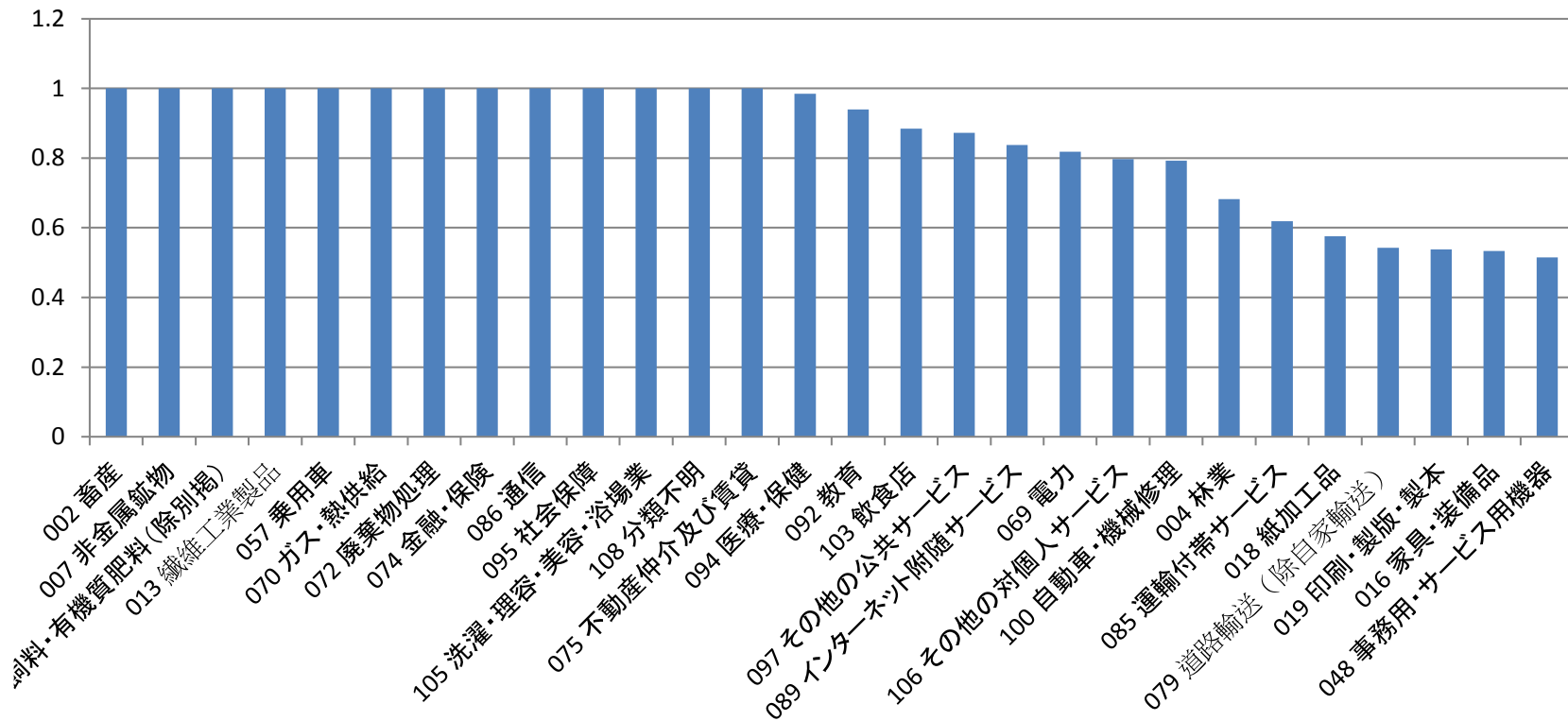
桐生市の産業構造の特徴

④影響係数(生産波及の大きさ、上位25部門)



桐生市の産業構造の特徴

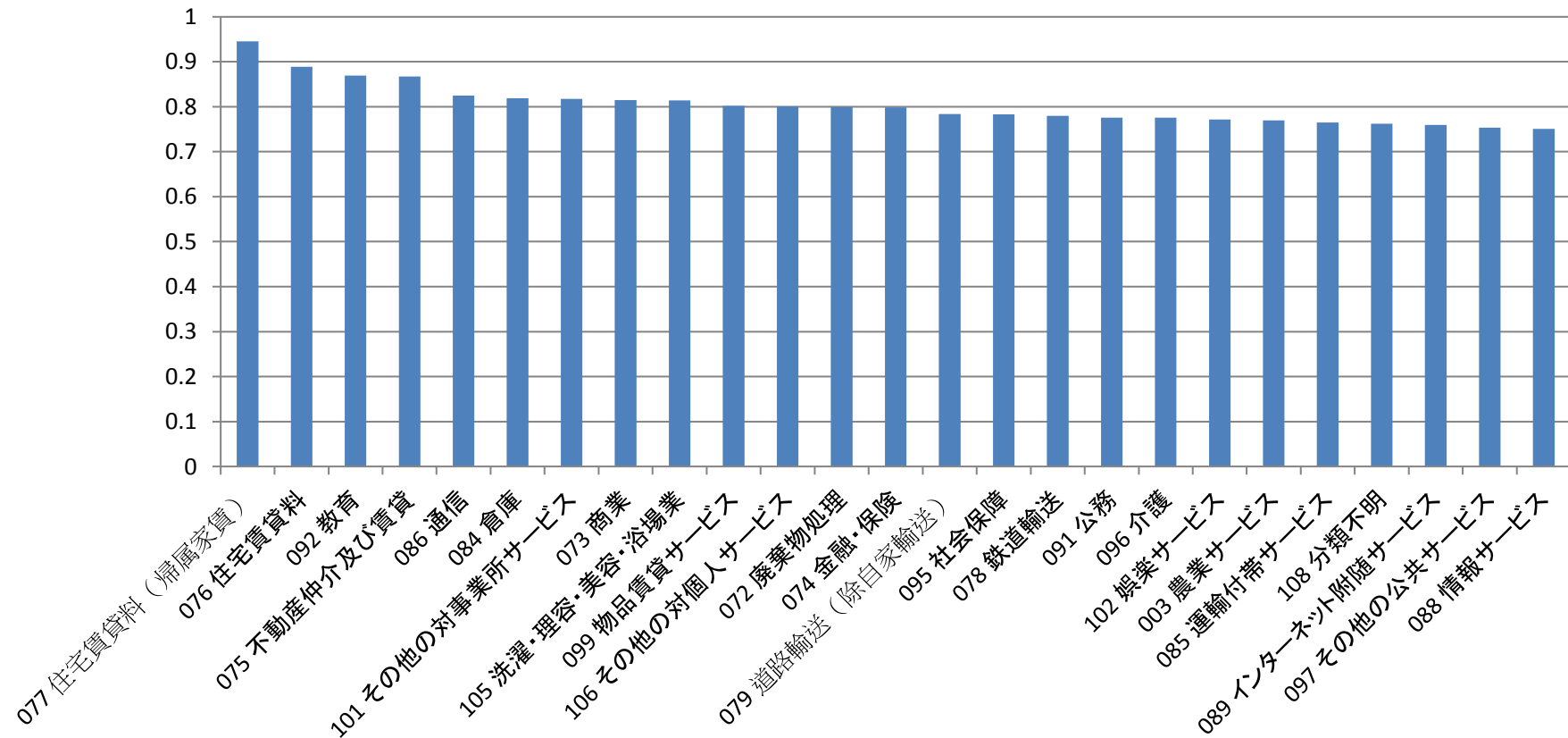
⑤自給率（地域内需要のうち地域内生産でまかなわれる割合、
1－移輸入率、>全産業平均）



※定義上、移輸入額がゼロになる産業は除く。

桐生市の産業構造の特徴

⑤地域内歩留り率（生産波及のうち地域内に生じる分の割合、上位25部門）



小型EVの経済波及効果分析

小型EVにかかわる部門

産業用電気機器、乗用車、および自動車部品・同付属品

※上記の部門は、生産額シェアや粗付加価値額シェア、および影響力係数は上位に位置しているものの、生産額シェアや粗付加価値額シェアの特に高い自動車部品・同付属品が、自給率では中位に、市内歩留まり率では最下位に位置している。

小型EVの経済波及効果分析

現在作業中だが、各種指標から確認できる桐生市の産業構造の特徴から、それほど大きな値は出てこないかも知れない。

ただ、仮にそうだととしても、取組みの方向性についての示唆を得るぐらいのことはできるのではないか。

⇒とくに市町村版の産業連関表にはさまざまな点で精度に問題が残るものの、何もなければマシ？